



## 「自然をまもる」ということを考える

恵泉女学園大学教授  
東京大学大学院連携教授  
鬼頭 秀一

人は、古来、自然とかかわり、何らかの形でその資源を利用しながら生活を営んできました。現在でも伝統的な形で自然と関係を持っている地域は世界的にも多く存在しています。日本においても、自然が豊かな地域では、昔ながらの利用の形態が残っているところが少なくありません。白神山地においても、奥深くはマタギの人々が狩猟を中心とした深いかかわりをしてきましたし、周辺のムラでは、山菜やキノコの採取を含めた自然とのかかわりが幅広い形でなされてきました。そのような自然の利用を通じてその地域の人々の自然認識が形作られ、自然の利用や自然とのかかわりのあり方が、地域独自の文化を形作ってきました。

日本国内、また、世界中の地域で多様な文化が存在していますが、そのような多様な文化を作り上げてきたのは、それぞれの地域における自然の多様性、生物多様性であると言っていると思います。地域の文化はその土地の生物多様性があるからこそ成り立っているわけですし、地域の文化の豊かさを見ることによって、逆にその土地の生物多様性の豊かさを感じ取ることができるのです。その意味で、生物多様性の豊かさ、人の自然の利用を含めた多様なかかわりは不可分であり、その意味において対立するものではありません。地域の経済も自然とのかかわりのあり方に密接に関連していました。

しかし、欧米においては近代以後、日本や他の地域では欧米から近代化がもたらされて以降、欧米の食文化や生活文化がまるで「普遍的な」文化として移入され、世界的な市場経済の中に巻き込まれたことによって、地域独自の自然とのかかわりという精神文化は後退していきました。「利用」にかかわる精神的畏敬は失われ、従来行われていた以上の過度の自然資源の利用が行われることになりました。その結果、地域独自の文化も貧しくなり、自然からの収奪がなされるようになりました。これが、「自然の破壊」ということであり、その後「生態系の破壊」あるいは、最近では「生物多様性の消失」と認識されるようになりました。「環境問題」の根本的な原因はまさにそこにあります。

ところが、1960～70年代の環境問題の時代から、白人たちにとっては「手つかずの自然」（しかし、実はネイティブの人たちはそこで暮らしていたのですが）である原生的な自然（ウィルダネス）が多く残されている一方で、その消失が問題化していた当時のアメリカの思想文化の中から出現した、利用をも含めた人とかかわりをまったく排除した「自然保護」の思想が、世界を席巻することになりました。その結果、人間の営み自体が自然と対立するものとして理解され、「自然」の領域を自然の領域から切り離して「保全」（さらには「保存」）することが当然のように考えられました。そ

のような理念のもとにそこに住む人を排除するような形でナショナルパークが世界各地に作られました。世界遺産の自然遺産も、かつては、同じような形で捉えられたのです。白神山地も、不幸なことに、かつては、人とかかわりをなるべく排除するような形での保全管理が考えられたこともありました。

しかし、海外においても、先住民族の人たちのように伝統的な「利用」も含めた自然との深いかかわりを持ち、独自の文化を継承してきた人々を排除することによって自然保護を考えることはいびつさは、深く認識されるようになりました。彼らを排除することなく、地域に密着した形で自然保護がどのようにありうるのかは、さまざまな形で模索されているのが現状です。

その意味で、むしろ、それぞれの地域における「文化」というものを見直し、その中で生物多様性の保全を考えていくことが主流になってきています。生物多様性国際条約に基づき、平成7年に策定され、昨年3月に改訂された日本の新生物多様性国家戦略においても、生物多様性の保全と持続可能な利用のための理念

次の面へ



(写真上下)

白神山地ビジターセンター大型映像  
「白神山地 いのち輝く森」より

として、①人間生存の基盤、②世代を超えた安全性・効率性の基礎、③有用性の源泉、④豊かな文化の根源という4つの意味と⑤予防的順応的態度という基本的考え方を掲げており、自然保護の領域に「文化」ということがはじめて取り上げられることになりました。

このような時代において、わたしたちは豊かな生物多様性を保全するために、それぞれの地域で、自然とのかかわる地域独自の文化をどのように取り戻し、また、どのように形作っていくことにより、自然とのよりよい関係を新たに築き上げていけるのかを考えていかなければならないでしょう。

とはいえ、そのような文化の基礎になる自然とのかかわりのあり方は根本から捉え直していかなければならないかもしれません。

というのも、農業や林業、漁業のような生業も精神文化と結びついて地域独自の営みがされていたかつてのあり方から、近代化を経て、生産性に重点を置き、遊びや他のさまざまな自然とのかかわりも含めた幅広く豊かな概念を失ってきています。また、登山に関しても、宗教的な色彩が強かったかつての日本の「登山」とは大きく変わり、日本アルプスを舞台に展開してき

た近代登山を源流に、その質も大きく変わりました。アウトドアなどのレジャーの営みも、生活から離れて自然とのかかわるという形で、近代的意味において自然を消費し収奪するものになってしまっています。

私たちは、地域の生活の中で、地域の文化の中で、自然とのかかわりの基本的なあり方を再度問い直し、「遊び」から「生業」までも含めたトータルなものとして位置づけ、その地域での自然とのかかわりの歴史を紐解き、環境史を掘り起こすことによって、地域の精神文化の基礎としての自然とのかかわりのあり方を問うていかなければならないでしょう。そのような中で、人間の「生」の基礎にある豊かな生物多様性を保全しつつ、土地に根ざした地域文化をいかにして築き上げていき、真の意味での人間と自然との共生のあり方を問い続けていかなければならないのだと思います。

そのことが可能になってはじめて、白神山地の保全ということの意味をわたしが知ることができるのでしようし、一方で、海外においても自然保護がどのように展開していくべきか、ということを理解することができるのではないのでしょうか。

## 15年度レポート

◎今年度新たに実施した行事を紹介します。

### 5月11日 バードウォッチング入門



キビタキ発見

5月10日からのバードウィークにあわせて初めてバードウォッチングの行事を行いました。初心者も参加できるように双眼鏡を貸し出し、その使い方の練習から始めました。スタート地点の川沿いではカワガラスやキセキレイが登場。次にブナ林散策道をゆっくり歩いてアカゲラ、アオゲラ、コゲラなどのキツツキ類、北に帰る途中のマヒワ、渡ってきたばかりのツツドリなどを確認しましたが、なんとといってもキビタキの美しい姿とさえずりが多くの人々の心に残ったようでした。全部で17種類を観察。来年も開催してほしいといううれしい感想が寄せられました。(講師 松本明男さん、山寺 亮さん)

### 6月15日 白神トレッキング入門

高倉森自然観察歩道のトレッキングを年に2回行っていますが、歩き慣れていないと後半の長い下りで足を痛めることがあります。また、子ども達にも気軽にブナの森を歩く体験をしてほしいという願いから、今回は「白神トレッキング入門」と題し、津軽峠・高倉森往復の安全なコースでトレッキングを行いました。参加31名中28名が白神を歩くのが初めてという人。講師は岩木山自然学校の高田敏幸さんと高田幸子さんで、アイスブレイクの楽しいゲームから始まりました。トレッキングでは途中足を休めながら、森の様子を観察したり、腐葉土の成り立ちや森の更新などの解説に耳を傾けたりして、白神の自然を満喫することができました。



アイスブレイクのゲームの様子



観察しながらのゆったりした山歩き

◎学校の利用が増えてきました。

平成14年度、当センターには小学校から大学まで合計51校4400名ほどが見学に訪れました。今年度も春から20校以上の学校が来館しています。とくに総合的な学習での利用が増えていて、写真を撮ったり解説を写したりして展示を熱心に見学していく姿が見られています。また、白神山地について説明してほしいという要望にお応えして、出前授業も行いました。学校の授業での来館にあたっては、施設を有効に活用してもらうために事前に相談を受けています。見学のアドバイス、資料提供など授業のお手伝いをしておりますので、お気軽にご連絡下さい。



ブナ林のしくみを見る  
(岩手大付属中・盛岡市)



成虫越冬のチョウ2頭を探す  
(尾上中・尾上町)



季節の様子を調べる  
(松園小・盛岡市)



クマさんの説明を仲良く聞く  
(朝陽小・弘前市)

日本野鳥の会会員  
山寺 亮

野山で鳥のさえずりに耳を傾ける…、気分爽快ですね。でも、さて、なんの鳥でしょう？ 相手は鳥語でさえずるので、私たち人間には意味がわかりません。例えば、鳥の図鑑に載っている鳥の鳴き声を並べてみると、「ツツピー、ツツピー」、「ツーツーピーン、ツーツーピーン」、「ツィー、ツィー」、「ツッピン、ツッピン」、「ツィー、ツィー、ツィー」となりますが、これらが何の鳥かわかる人は少ないでしょう。鳥の鳴き声をかかってに日本語に翻訳して覚える、これを“聞きなし”と言いますが、鳥を識別する近道の一つでしょう。

昔からいろいろな聞きなしが行われていて、民話にも登場します。皆さんも独自に作ってみてはどうでしょうか。いくつかを紹介してみましょう。

- ◎「ホー法華経」：これは説明の必要はないでしょう。
- ◎「グツグツ飯炊いてピチャピチャ虫食おう」：早朝スズメが鳴き交わっています。窓を開けると一斉に飛び立ち、又つかの間の静かな睡眠がやってきます。
- ◎「土食って虫食って渋ーい」：ツバメは土で巣を作り、虫も沢山食べます。この聞きなしはツバメの生活をも表していて、私の大好きな聞きなしです。ただし民話に登場するツバメは、何かおいたをして、お仕置きとして土や虫しか食べさせられなくなったと言うのですが…。
- ◎「一筆啓上つかまつり候」、「源平ツツジ白ツツジ」：これはホオジロですが、身近な鳥として、昔からいろいろな聞きなしがあります。「札幌ラーメン味噌ラーメン」、「アッと驚く為五郎」とか。
- ◎「てっぺんかけたか」、「特許許可局」：沢山の聞きなしがあると言えばホトトギスが一番、民話にも多く登場します。「本尊建てたか」とか、「包丁かけたか、弟腹切っちゃ、弟切っちゃ」。これには悲しい物語があります。昔々、兄弟二人が生活をしていました。兄思いの弟は、旨いものは兄に食べさせ、自分はまずいものばかりを食べていましたが、それを知らない兄は、弟は旨いものばかり食べて自分にはまずいものしか食べさせていないと誤解して、弟を殺してしまふ。しかし、弟の腹からはたいしたものは出てこなくて、兄は後悔のあまりホトトギスになって、昼夜を問わず、のどを真っ赤にして鳴き続ける。
- ◎「長兵衛、中兵衛、長中兵衛」、「千代田の城は千代八千代」：メジロの古くからの聞きなしですが、「チルチルミチル、チルチルミチル」というかわいいものもあります。
- ◎「銭取り、銭取り」：メボソムシクイといえはこの聞きなしですね。
- ◎「鶴千代君」、「焼酎一杯グイー」：センダイムシクイといえはこの聞きなし。その他に「じいやじいや起きいー」、「チカレタビー」、「チチブジー（秩父路）」。
- ◎「ジュン、ジュン、順チャン三色」：これはハクセキレイのつもり、私も作ってみました。ハクセキレイはセグロセキレイより濁った鳴き声です。この他に「チチンパイ、パイ」。

さて、冒頭に載せた5種類の鳥の鳴き声は次の通りです。まず、身近なシジュウカラですが、「貧、財布空空」、「ジャンパー脱げ、手袋脱げ、ジュクジュク」、「物価上昇、財布カラカラ」など。次のヤマガラは「ズーズーシー、ズーズーシー」。シジュウカラに比べて濁った鳴き方が識別のポイント。ヒガラはか細い声で「ツメテー、ツメテー、冷テー」で火がほしいカラ。エナガは宝石をこすり合わせて「ジュエリー、ジュエリー(jewelry)」(私の作)。コガラはか細く「フィー、フィー」、聞きなしは…？ 皆さんに考えていただきましょう。

外国の例も紹介しておきましょう。

「kiss me」：サシバ。

「lottle bit of bread and no cheese」：キアオジ。

「one more bottle」：セグロカッコウ。

洋の東西を問わず、人間、同じ発想をするようですね。



ホオジロ



ホトトギス



センダイムシクイ



シジュウカラ



ヤマガラ



ヒガラ



エナガ



コガラ

## 展示ホールで遊ぼう！学ぼう！



### 白神山地の四季がわかります

円形のガラスの下には白神山地の模型、その周囲に12本の柱が立っているコーナー、ここが「白神山地のフェノロジー」コーナーです。フェノロジーとは自然の暦のことで、このコーナーでは白神山地の四季の様子を知ることができます。12本の柱は1月から12月までの各月を表し、各柱にはその月の特徴的な動物、植物、人の生活などを紹介する3枚のパネルがついています。写真の下には説明がありますので、ぜひパネルをめくって見てください。また、ガラスの周囲には各季節に見られる生き物の暦が細かくびっしりと書かれています。

## ビジターセンター情報掲示板

### 2階ホワイエをご利用ください！

2階のホワイエをご覧になったことはありますか。人の行き来がほとんどない静かな空間になっていますが、ここは写真展などに利用できる場所です。使用料は無料です。写真展や個展など開きたい方は、ご相談ください。



ギャラリートークにも利用

### 臨時開館日のお知らせ

8月4日（ねぶた祭り期間のため）  
2月9日、23日、3月1日（冬期観光シャトルバス運行のため）

### 編集後記

今年は白神山地が世界自然遺産に登録されて10年目にあたります。そこで、『自然保護を問い直す』（筑摩書房）で白神山地の問題を扱われた鬼頭秀一先生に原稿をお願いしました。先生のご専門は環境倫理学、環境社会学。この通信では生き物の話題を多く取り上げてきましたが、自然や自然保護をどうとらえるかという視点で別角度から考える機会としました。山寺亮さんは日本野鳥の会会員、自然観察指導員です。春のセンター行事「バードウォッチング入門」でも講師として楽しい観察会を行っていただきました。

## 白神山地ビジターセンター

—入館無料—

【開館時間】9:00～16:30（大型映像 10:00 11:20 13:00 14:10 15:20 上映時間30分）  
【休館日】毎週月曜日（ただし、月曜日が祝日の場合は翌日）、年末年始（12月29日～1月3日）

〒036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田61-1

Tel: 0172-85-2810 Fax: 0172-85-2833

ホームページ <http://www.pref.aomori.jp/sirakami/visitor/visitor.htm>

※30名まで収容できる会議室、工作室があります。ご利用下さい。（要申込み）  
※学校の見学や体験学習については相談をうけています。ご連絡下さい。

